

組織現勢 (6月1日現在)

組合員数	24,562世帯
出資口数	87,822口
5月の新規加入	26世帯
5月の増資口数	188口

No. 321 再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所

城南保健生活協同組合

本部事務局 大田区大森中1-22-1 2階

TEL (3762) 0266

振込銀行 さわやか信用金庫大森支店

口座(普) 0469459

発行 「城南の保健」編集委員会

毎月1回発行・定価1部 30円



制度の改善を



の充実を

介護保険制度の改善は
未来の自分につながっている社会保障の充実
子どもの未来につながっている介護保険制度の改善・
社会保障の充実
明日の私に
つながっている

今回の改訂の中心は加算が中心です。負担の大きな業務への評価・専門性への評価など基本視点とするとされています。具体的には、①どのようなスタッフがいるのかで報酬が変わる体制加算や特定事業所加算の新設、30分のケアを行う身体介護、1時間の生活援助の報酬単価アップが行われました。「身体介護30分」は330円事業

加算中心の改訂だが…

介護保険制度がスタートして10年目の今年4月、介護報酬が見直されました。制度はじまって以来のはじめてのプラス改訂となりました。今まで2回の改訂で4・7%マイナス、そして今回3%プラスとなったのです。プラスとはいえ今までのマイナス分に届かない改訂です。

すずらん統括所長
大澤千恵子

介護保険の見直しが行われて

利用者負担を減らすことが重要
介護労働の専門性を評価して報酬を上げると利用者負担が増えます。これは介護保険制度の構造的欠陥です。私は、今後の介護保険制度は、国庫負

所収入が増え、33円利用者負担が増えます。「生活援助1時間」は300円事業所収入が増え30円利用者負担が増えます。②訪問介護の報酬は東京23区の場合1単位あたり10・72円で報酬を計算していましたが、1単位当たり11・05円と増額になりました。収入増はヘルパーさんの雇用条件を改善するために、また介護労働者の不足を改善するためにと言われておりましたが、実際は厳しいものがあります。先述のように、これまで介護報酬は下げられたり、サービスによつては、よくて据え置きが現状でした。ヘルパーの時給をわずかずでもアップさせてきていた事業所は、その埋め合わせで精いっぱいでした。

担を大きく増やして、利用者負担を10%ではなく、大きく減らしていくことが重要だと思えます。介護労働者の労働条件を改善し、介護の現場で働く人が増えれば、高齢者も、介護している家族も安心できるのです。そして、介護労働者がきちんと納税し、年金保険料も納めることができるようになれば、良い循環ができるのではないのでしょうか。

介護認定基準の見直しは大問題

また今、大きな問題となつて

担を大きく増やして、利用者負担を10%ではなく、大きく減らしていくことが重要だと思えます。介護労働者の労働条件を改善し、介護の現場で働く人が増えれば、高齢者も、介護している家族も安心できるのです。そして、介護労働者がきちんと納税し、年金保険料も納めることができるようになれば、良い循環ができるのではないのでしょうか。

いるのは、介護認定基準の見直しです。口からの食事が困難で、点滴などで栄養をとっている利用者さんは、食事介助の必要がないとされ、食事は「自立」(介助されていない)、頭髮のな一方の整髪は必要ないことから「自立」(介助されていない)など、その方の能力を勘案してチェックするということとはしなくなつたのです。また、今まで10分間座ることで「自立」とされていたものが、たった1分間座ることができれば、座位「自立」となります。そのため、認定の判定が低くなつてしまふ

ケースが増えるのではないかと不安が広がっているのです。
社会保障の原則を生かして！

この間の国会の議論の中で、その目的が介護給付費の削減だったことも明らかになりました。「給付は必要に応じて！負担は能力に応じて！」こそが社会保障の原則です。私は、その原則を介護保険制度に生かしていくために微力を尽くしたいと思います。

城南保健生協、新日本婦人の会大田支部
東京南部生協の3団体共催
5・30介護保険学習会に59人が参加

講師の土居さん



3団体共催での介護保険学習会

5月30日(土)、城南保健生協、新日本婦人の会大田支部、東京南部生協の3団体共催で介護保険の学習会十個別相談会を開催しました。
当日の参加は59人。講師は、大田病院介護保険室の土居恵孝さん。個別相談には、すずらんの大澤所長、石倉さん、の焦点を相談していきます。
城南保健生協では、現在「介護保険制度の改善・社会保障の充実を求める署名」にとりくんでいます。この署名は、これ以上の制度改悪を絶対に許さないために、「保険あつて介護なし」の事態を解消し、負担の心配なく、必要な介護を受けられる介護保険制度へ抜本的な改善を求めるものです。4面に署名用紙を掲載しています。城南福祉医療協会の事業所窓口、城南保健生協の各事業所までお持ちいただければ幸いです。

腹八分

先日ある集会で聞いた高齢者の発言が印象に残りました。「私たち高齢者は戦争中は国のためと狩り出され、弾丸の中を潜りぬけてきた。戦後は焼け野原の何もないところから必死で生きてきた。だのに、年寄りが多すぎて金がかるから政府は「早く死ね」と言わんばかりの仕打ち。今に見ても、姥捨て山は、噴火する。こんな川柳もあるように、心から怒っている——こんな訴えに集会の参加者の胸に怒りの炎が燃え移りました▼何年前かに「年寄りは金持ちだ。こんな声が政府の側から振りまかれたことがありました。だから高齢者も自分の負担が当然という政府の言い分でした。そして今、病院に行きたくても医者にかかれず、こんな悲痛な声が高齢者から寄せられています。難民のごとき高齢者の増大をよそに、政府の施策は相変わらず財界・大企業の要求に添ったものであり、定額給付金などの選挙目当てのバラマキで国民の眼をくらませるものばかりです▼かつて革新都政であった時代、お年寄りの医療費は無料でした。東京がその先駆けとなったのです。最近、再び高齢者の医療費を無料に、この声が草の根から広がっています。実現させる財源もはっきりあります▼非正規雇用を強いられる若年たちが「蟹工船」に導かれるようにして自らの権利を得ようとしているがごとく、高齢者の叫びも署名を通して広がっています。都議選・衆院選を間近にして、姥捨て山の住民たちから、国民を巻き込んだ噴火の予兆が現れています。